

平成30年度卓越大学院プログラム審査結果

機関名	東北大学		
プログラム名称	人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	金子 俊郎

【採択理由】

本プログラムは、超スマート社会（Society 5.0）を実現すべく、産学連携・社会連携を常に意識しながら、「人工知能エレクトロニクス」を構築する人工知能スピンドバイス、人工知能データ科学、人工知能プロセッサの幅広い知識を学修し、異分野技術を巻き込み「継続的イノベーション」を起こすことができる卓越した人材を育成するものである。6 研究科が参加して未来社会のシステムアーキテクチャに携わる人材の育成を目指すもので、東北大学の強みの一つであるスピントロニクスを核として、人文・社会科学の領域までを組み込んだ広範囲にわたる教育プログラムとなっており、その意義は大きい。スピントロニクス系の研究実績は国際的に高く評価されており、その研究環境や国際的ネットワークをベースとしたプログラムであることから、革新性と実効性が認められ、グローバルに活躍する博士人材を育成する機能的なシステムとなることが期待できる。

また、アドバンスト課程における PBL 科目群の設定、プロフェッショナル課程における半年間にわたる長期企業インターンシップや海外企業インターンシップ等のインターンシップ科目群の設定など、学際融合教育とともに、実践力を身につける産学連携教育を行うカリキュラムが組み込まれている。PBL 等を通じて企業とともに学生を育成する枠組みとなっており、まさにオープンイノベーションを育む優れたプログラムと考える。

加えて、「在学就職制度」は博士課程修了者に対する新たなキャリアパスを提示できる可能性が感じられ、こうした制度のような博士課程進学者のキャリアや経済的側面での不安を解消しようとする仕組みが盛り込まれている点も優位性がある。

「学位プログラム推進機構」を設置し、「プロボスト制」を導入するなど、マネジメント体制も充実している。大学全体の大学院改革の方向に沿った提案になっており、その位置付けも明確である。全体として目指す人材像をどのように育成するのか詳細に検討されているので、大学が主体性を持ちながら、企業とより密に連携してプログラムを進化させていくことを期待したい。